路上生活者の個人史

第９回

竹中尚文

秋田　正一　氏(仮名)

1952 年 11 月生、現在 71 歳

　私は福井県の北部で生まれました。家族は祖母と両親、兄弟が 4 人でした。私の上に姉がいました。私の下は、弟と妹でした。7 人家族で成長しました。周囲は米作地帯で、実家も農家でした。農家といっても、父親は近い町の工場に働きに行く兼業農家でした。実家は、周囲の農家と同じように戦後に農地を少し手に入れた農家でした。多くが農業だけでは生活ができない兼業農家でした。

　中学校を卒業して地元の職業訓練校に入りました。私が入った学校は 1 年でした。そこで溶接などの金属加工を習いました。16 歳で大阪の会社に就職して、大型トラックの特殊車体を作っていました。3 年ほどすると、東京でも仕事をするようになって、東京と大阪を行ったり来たりで仕事をしていました。ところが、20 歳の時に父親が亡くなりました。父親が亡くなって、実家に帰りました。実家に帰っても福井の田舎ですから、そんなにいい仕事もありませんでした。だからまた大阪に出てきました。大阪と実家で、行ったり来たりの生活をしました。実家の田圃ですか。私が

三十代から四十代の頃に、何度か災害があったりしてお米ができないこともありました。農業も機械化が進んで、どんどん高額の農業機械を買う時代になっていましたので、田圃は他の人に任せるようになりました。機械もなく、母親一人で農業ができる時代ではなかったです。

兄弟ですか。姉は岐阜で結婚をしていました。今は、姉の子どもが名古屋にいるので名古屋で暮らしています。弟と妹は、母親と一緒に福井県で暮らしています。私が福井県に帰ってもなかなか仕事もないので、岐阜県に近い方で山仕事があったので山仕事をしたりしていました。大阪の方が幾分いいお金になる仕事がありますから、大阪に戻ってきて仕事をしたりしていました。郷里で山仕事をできる体力もなくなってきて、大阪で鉄鋼の仕事をしていました。それも数年前までで、今は鉄鋼の仕事をできる体力もなくなりました。

今、私は年金暮らしです。住まいはその辺で野宿です。福井で母親と弟と妹が暮らしているので、私が大阪で福祉の世話になるわけにもいかんのですよ。百歳に近い母親が、なんとかやすらかに生涯を終えて欲しいです。それまでは、私も頑張っていたいと思っています。

秋田氏の生き方について、もっと上手く生きる方法のアドバイスがあるかも知れない。あれば教えてほしい。私は秋田氏の話を聞きながら、彼の家族に対する深い愛情を感じた。器用な生き方ではないかもしれないが、秋田氏は温かい人だと思った。寒空で路上生活をする秋田氏に少しでも役立つことがあればと思う。